

Brown Bag Seminar

ブラウンバッグセミナー

録画期間限定公開
オンライン (Zoom)

2022.2.16

(水)



登録はこちら

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

日 ← 同時通訳 → 英

12:10 ~ 12:50

- 12:10-12:15 ◆ 演者紹介
- 12:15-12:40 ◆ プレゼン
- 12:40-12:50 ◆ 質疑応答

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_L2F6kN3qSfCHT8sxBCRuzw

胎児期の環境がヒトの発達に与える影響について

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

3 すべての人に健康と福祉を



本セミナーでは、胎児期の環境がヒトの発達に与える影響についてお話しします。

胎児期の環境がヒトの健康に与える長期的な影響について、古くは 1980 年代から報告されてきており、DOHaD (Developmental Origins of health and Disease) 学説と呼ばれています。具体的には、妊婦の栄養不足が、児の低出生体重や早産を招くばかりか、成年期以降に生活習慣病を発症する頻度が高まるとした報告に始まり、様々な報告がなされています。現在では、この概念が日本の健康政策や提言にも取り入れられています。日本産科婦人科学会周産期登録データベース、エコチル調査のデータを用いて、胎児期の環境として大気汚染や母体の生活習慣等を取りあげ、その結果生じる児の睡眠覚醒リズムの問題、発達の問題に関して検討した結果をお話しします。



諸隈 誠一 教授

九州大学大学院 医学研究院 保健学部門

九州大学医学部を卒業後、産婦人科医として勤務。九州大学大学院医学研究院にて、超音波断層法を用いたヒト胎児の行動発達に関する研究を行い、医学博士を取得。引き続き産婦人科医として九州大学病院で勤務する傍ら研究を継続しました。

前職(九州大学環境発達医学研究センター)では、環境省が実施する妊娠期からのコホート調査(エコチル調査)に携わり、2018年4月に現職である九州大学大学院医学研究院保健学部門の教授に着任しました。

ヒト胎児の行動発達、妊婦の生活習慣が母児の健康に与える影響に関する研究を行っています。

